

山代白羽神楽保存会 (神楽の保存伝承 / 山口県岩国市)



会長 巻郷満氏

【由来】

山代白羽神楽は、江戸時代中期に相次ぐ飢饉や疫病の流行に悩まされた農民が、五穀豊穡と悪疫退散を願う神事として始まったと伝えられており、現在も、岩国市美和町二ツ野地区の鎮守である白羽神社の秋の例祭に奉納されている。

1962年に地元住民が「白羽神楽保存会」を結成し、1968年に山口県無形民俗文化財に指定されている。

【受賞歴ほか】

- 1964年 山口県選奨 (文化財保護)
- 1981年 山口県教育功労者表彰 (民俗芸能部門)
- 2002年 地域文化功労文部科学大臣賞
- 2009年 岩国市文化功労賞
- 2019年 西京教育文化振興財団表彰

山代白羽神楽が伝承される岩国市美和町二ツ野地区は、江戸時代には山代と呼ばれた山間地にあり、萩藩の財政を支える和紙生産の盛んな土地柄であった。山口県の東部、安芸国(広島県)および石見国(島根県)との国境に位置するため相互の交流があり、出雲の流れをくみながら、1839年、白羽神社社殿の落成記念に招いた安芸国佐伯郡明石村の神楽から観照的な神楽を取り入れるとともに、八調子といわれる速いテンポは石見神楽の影響を受けたと伝えられている。

山代白羽神楽保存会は、1962年に結成され、現在も設立当初とほとんど変わらず28名が会員として活動している。現在は、過疎化の進行する山里であるが、秋の例祭はもとより、10年に一度の大祭でも一度も途絶えることなく奉納し続け、広島・島根両県の神楽保存会との交流も図っている。2000年には、大韓民国の国際機械博覧会の公演に招かれるなど、国内外を問わず積極的な活動を行っている。加えて、1984年からは、地元にある「北中山子ども神楽」の指導を続けるなど、後継者の育成にも熱心に取り組んでいる。

また、さまざまなイベントへの出演に加え、新型コロナウイルス感染症の影響下で始めたインターネット配信による動画公演や近隣学校への神楽体験授業を行うなど、時代に合わせた活動にも力を入れている。

以上のとおり、山代白羽神楽保存会が、長きにわたり伝統文化の保存・伝承および振興に取り組んできた功績は、誠に顕著であり、高く評価できる。

受賞の言葉

この度は名誉ある賞をいただき、厚く御礼申し上げます。私達の地域は、山口県岩国市の山間部に位置する二ツ野という小さな集落、昔からお店も自動販売機もない、絵に描いたような田園田舎風景、過疎高齢化が深刻な地区ですが、私も幼少のころから近所のおじちゃん・おばちゃんとは家族のように親しく、優しさや厳しさの中で育てていただきました。

山代白羽神楽保存会は、この地域の神楽を保存・継承し、後世に伝える団体です。同時に地域住民と結束して、地域・景観・伝統を守る精神で頑張っています。この強い意志の源は、先人より受け継がれてきた神楽が地域に根付いている証だと言えます。会員のみならず地域住民にもアツい心が存在し、地域のために会員は動き、神楽のために地域も動く関係性は私達の特色です。

継承といえば、「北中山子ども神楽」も大きな存在です。保存会員の指導のもと幼少期から舞い、全国各地で公演を行っています。現在の保存会員は、子ども神楽出身員も多く、保存会と子ども神楽の団体連携、メンバー間も親子のような関係性で同じ理念を基に頑張っています。

これからも白羽の歴史をしっかりと築いてまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2023年10月9日
地域の速田神社にて
秋祭 奉納神楽の様子



2023年10月30日
地域の小学校にて
神楽講演、衣装等試着体験の様子



2023年10月7日
奉納神楽に向けた練習風景